

[年度] 令和3年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] 新種クマノザクラの保全と活用に向けた大量増殖及び更新技術の開発

[担当機関名] 林業試験場 経営環境部

[連絡先] 0739-47-2468

[専門分野] 林業

[分類] 研究

[背景・ねらい]

クマノザクラは、紀伊半島南部で発見された野生種であり新たな観光・森林資源として期待されています。そこでクマノザクラの増殖特性を解明するとともに、挿木、接木による効率的なクローン増殖技術の確立を行いました。また、各地域で開花時期や花色などが異なる多様な特徴、形質をもったクマノザクラ優良木の選抜に取り組みました。なお、活用の際して‘染井吉野’の植栽跡地での改植が増加することが予想されますが、サクラ類においても連作障害の発生が確認されていることからサクラ類の改植技術を検討しました。

[研究の成果]

1. 挿木は、個体差が大きいものの、休眠期の冬に比べて活動期である春～夏の発根率が高いことがわかりました。(図1)。穂木の形状については、統計的な差はないものの、試験を行った中では「7月に穂木の根本直径が2～5 mmの当年枝を、長さを10 cm(2～3葉)にそろえて挿す」と成功率が最も高く、二割弱が発根しました。
2. 接木は9月に腹接ぎと芽接ぎを組み合わせた二箇所接ぎを行うことによって、安定した得苗率(67.9%)を得ることができました(図3)。台木樹種は、オオシマザクラ台木は安定して活着するが台勝ちやすく、ヤマザクラ台木と実生クマノザクラ台木では同程度の得苗率を得ることができました(図2)。
3. 優良候補木73個体から花の直径は‘染井吉野’>クマノザクラ>ヤマザクラの順に大きいことがわかりました。中には‘染井吉野’に匹敵するサイズの花弁をもつ個体もあることから、より観賞価値の高いクマノザクラの選抜が必要であることが示唆されました。
4. 衰弱している‘染井吉野’付近の土壌において、ウメの連作障害評価で実績のあるレタスを用いた試験により連作障害がみられたことから、サクラを改植する際には元植えていた場所から離して植える必要があると考えられました。また、連作障害は粉末活性炭を土壌に5%(DW/V)混ぜることによって低減しました(図4)。

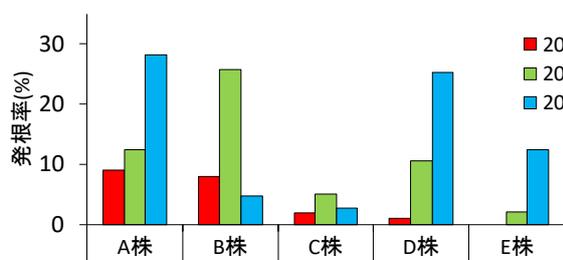


図1 「挿木」差し付け時期による発根率の違い

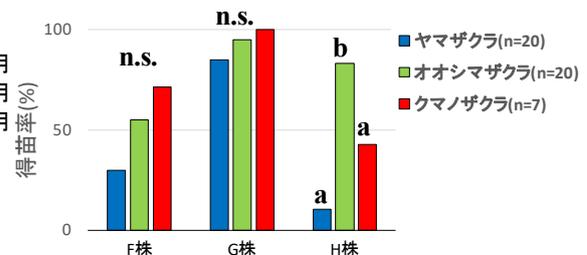


図2 「接木」台木による得苗率の違い

※abは有意差があることを示す(P<0.05)。

※n. s. は有意な差がみられない事を示す(P≥0.05)。

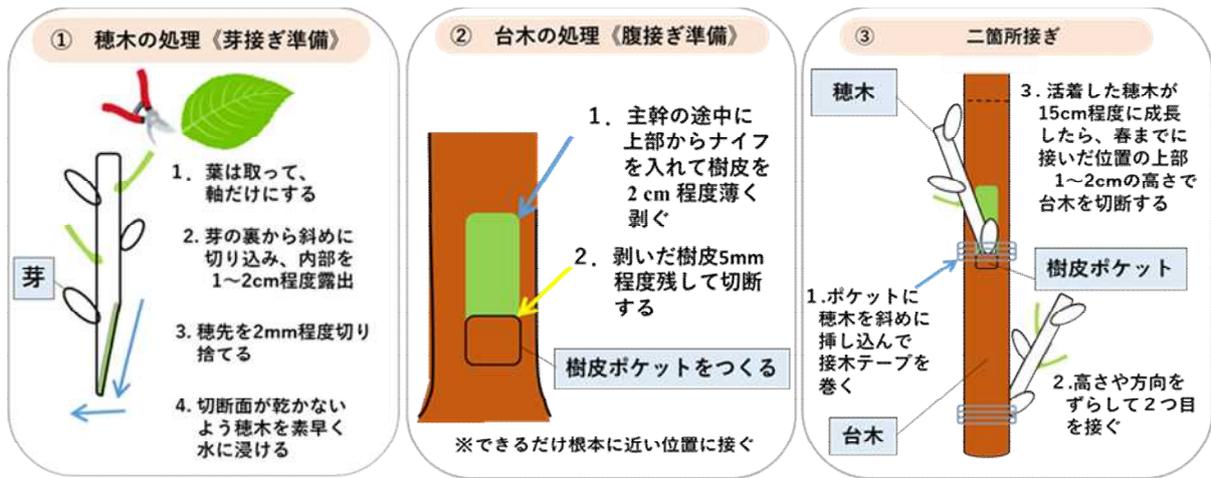


図3 クマノザクラ接ぎ木方法

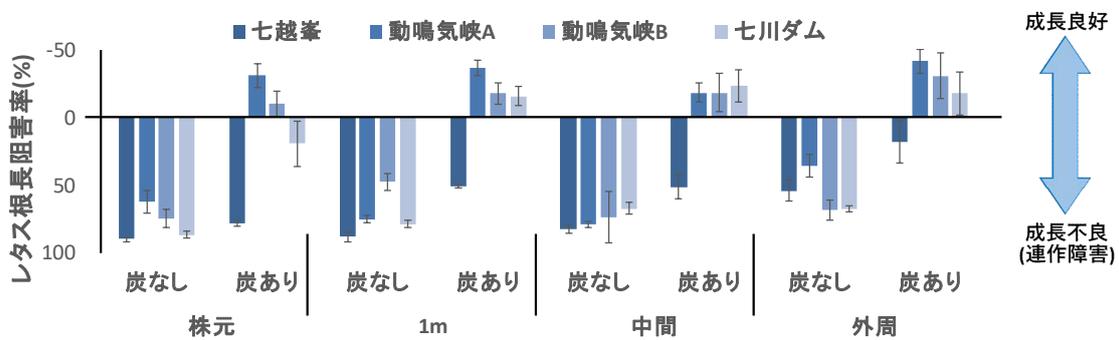


図4 衰弱'染井吉野'植栽土壌における活性炭施用による根長阻害率への影響

※検定植物はレタスを使用し、対照区の根の伸びと比較した  
 ※炭あり区は活性炭5%(DW/V)を混和した

[成果のポイントと活用]

1. 挿木は全体的に得苗率が低いため、増殖に関しては接木が効率的です。接木試験においてオオシマザクラ台木は高い得苗率を得られましたが、台勝ちによりオオシマザクラ苗木となる恐れがあるためヤマザクラ台木を使用すべきと考えられました。
2. クマノザクラは花径等形質にばらつきが大きいです。染井吉野に匹敵する花卉サイズをもつなど観賞用として優良な個体を複数確認することができました。
3. レタスを用いた試験結果から、サクラ類の改植において連作障害土壌 1L あたり粉末活性炭 50 g を施用することにより低減できることが示唆されました。

[その他]

予算区分：県単(農林水産業競争力アップ技術開発事業等) 研究期間：平成31年度～令和3年度

研究担当者：的場彬通・山下由美子・大谷美穂

発表論文等：予定なし

ホームページ掲載の可否：可